

(株)東京航業研究所、(有)文化財 COM

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。特に、大井氏館跡遺跡第14地点の調査にあたっては富士見市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。また、江川南遺跡第19地点の調査にあたっては上福岡市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、内田潔、大曾根キク子、笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、河野匠、河野格、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木勝弘、関田成美、高貝しず子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、村端和樹、若尾久美子、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、川上文明、佐々木真理子、島田仁、清水七枝、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、戸田美根子、富田茂夫、中川和弘、成田淑美、成田良一、羽田美代子、吉田信江

(上福岡市教育委員会) 長田弘毅、壺岐ヒサ子、井川弘、宇佐美弘澄、遠藤忠志、小田静夫、小野沢保孝、菊口繁子、西城満期子、鈴木ちい、滝沢久嘉、富寺佐代子、中村正、宮崎達夫、吉田寛

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1 : 300 遺構平面図・遺物出土状況図 1 : 60、1 : 30 炉などの詳細図 1 : 30
土器実測図 1 : 4 土器拓影図 1 : 3 石器実測図 1 : 3、2 : 3 銭 1 : 1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート▲ 礫○

(4) 土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第3表 2003年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・地点名	申請地	面積(㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
1	鶴ヶ岡外遺跡第1地点	鶴ヶ岡5-177-3	5,526	事業所	2003.12.19~2004.1.22	2004.1.19~2.20	試掘後、調査会で本調査
2	鶴ヶ岡外遺跡第4地点	鶴ヶ岡1771-1他	5,911	給食センター	2003.12.10~12.24		試掘調査
3	亀居遺跡第57地点	鶴ヶ岡1-1-1	1,356	店舗	2003.4.24~4.28		試掘調査
4	鶴ヶ舞遺跡第7地点	鶴ヶ舞1-65-1	2,030	分譲住宅	2003.5.29~6.14	2003.6.23~7.3	試掘後、調査会で本調査
5	江川東遺跡第7地点	東久保1-160-47	88	個人住宅	2004.1.4		試掘調査
6	江川東遺跡第8地点	東久保1丁目150他	6,137	共同住宅	2004.3.25~4.7		試掘調査
7	江川南遺跡第18地点	東久保258-51,52他	240	共同住宅	2003.7.11~7.16		試掘調査
8	江川南遺跡第19地点	東久保1-185-1	1,129	店舗	2003.9.18~10.8	2003.10.10~11.14	試掘後、調査会で本調査
9	江川南遺跡第6地点	亀久保3-193	10	店舗	2003.4.16~4.24		試掘調査
10	東久保遺跡第53地点	東久保4-10	408	共同住宅	2003.5.7~5.22		試掘調査
11	東久保遺跡第54地点	東久保19-1	798	共同住宅	2003.5.9~5.22		試掘調査
12	東久保遺跡第55地点	東久保18-7	165	個人住宅	2003.6.9~6.12		試掘調査
13	東久保遺跡第56地点	東久保15-12	165	個人住宅	2003.7.31~8.5		試掘調査
14	東久保遺跡第57地点	東久保258-26	133	個人住宅	2003.9.29~10.1		試掘調査
15	東久保遺跡第57地点	ふじみ野2-4-3	133	個人住宅	2003.9.29~10.1		試掘調査
16	東久保西遺跡第16地点	東久保10-6	273	個人住宅	2003.6.3~6.4		試掘調査
17	東中学校西遺跡第23地点	東久保33-6画地	1,233	共同住宅	2003.8.5~8.13		試掘調査
18	東久保南遺跡第29地点	東久保60-5	357	駐車場	2003.5.19~5.28		試掘調査
19	東久保南遺跡第30地点	東久保58-13画地	164	個人住宅	2003.8.4~8.5		試掘調査
20	東久保南遺跡第31地点	東久保59-1,2画地	2,948	店舗	2003.8.21~9.1	2003.9.5~10.5	試掘後、調査会で本調査
21	東久保南遺跡第32地点	ふじみ野4丁目9-4	289	店舗	2004.1.26~1.29		試掘調査
22	西ノ原遺跡126地点	旭1-13-6,7	153	個人住宅	2004.2.23~2.25		試掘調査
23	神明後遺跡第22地点	苗間235-2,3	430	分譲住宅	2003.7.8~7.29		試掘調査
24	浄禅寺跡遺跡第23地点	苗間592-1	100	個人住宅	2003.4.28		試掘調査
25	小田久保遺跡第5地点	大井1023	165	個人住宅	2003.8.18~8.19	2003.8.20~9.2	教育委員会で本調査
26	本村遺跡第104地点	市沢3-4-1	804	共同住宅	2003.5.14~5.30		試掘調査
27	本村遺跡第105地点	大井2-12-4	131	個人住宅	2003.6.4~6.6		試掘調査
28	本村遺跡第106地点	大井2-1-11	135	分譲住宅	2003.7.2~7.8		試掘調査
29	本村遺跡第107地点	大井2-12-4	130	個人住宅	2003.7.3~7.5		試掘調査
30	本村遺跡第108地点	市沢2-6-25	109	個人住宅	2003.7.17~7.23		試掘調査
31	本村遺跡第109地点	市沢2-6-26	114	個人住宅	2003.7.17~7.23		試掘調査
32	本村遺跡第110地点	市沢2-6-27	101	個人住宅	2003.10.16~10.18		試掘調査
33	本村遺跡第111地点	大井2-16-2	1,033	分譲住宅	2003.11.4~11.20	2003.11.21~12.11	試掘後、調査会で本調査
34	西台遺跡第3地点	大井西台925-1	137	個人住宅	2003.6.16~6.30		試掘調査
35	西台遺跡第3地点	大井西台925-2、9	144	個人住宅	2003.6.16~6.30		試掘調査
36	西台遺跡第3地点	大井西台925-10、13	141	個人住宅	2003.6.16~6.30		試掘調査
37	西台遺跡第4地点	西台894-14,911-56	164	個人住宅	2004.1.15~1.16		試掘調査
38	東台遺跡第40地点	大井661	1,875	幼稚園	2003.10.6~11.4		試掘調査
面積合計			35,359				

XI 本村遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

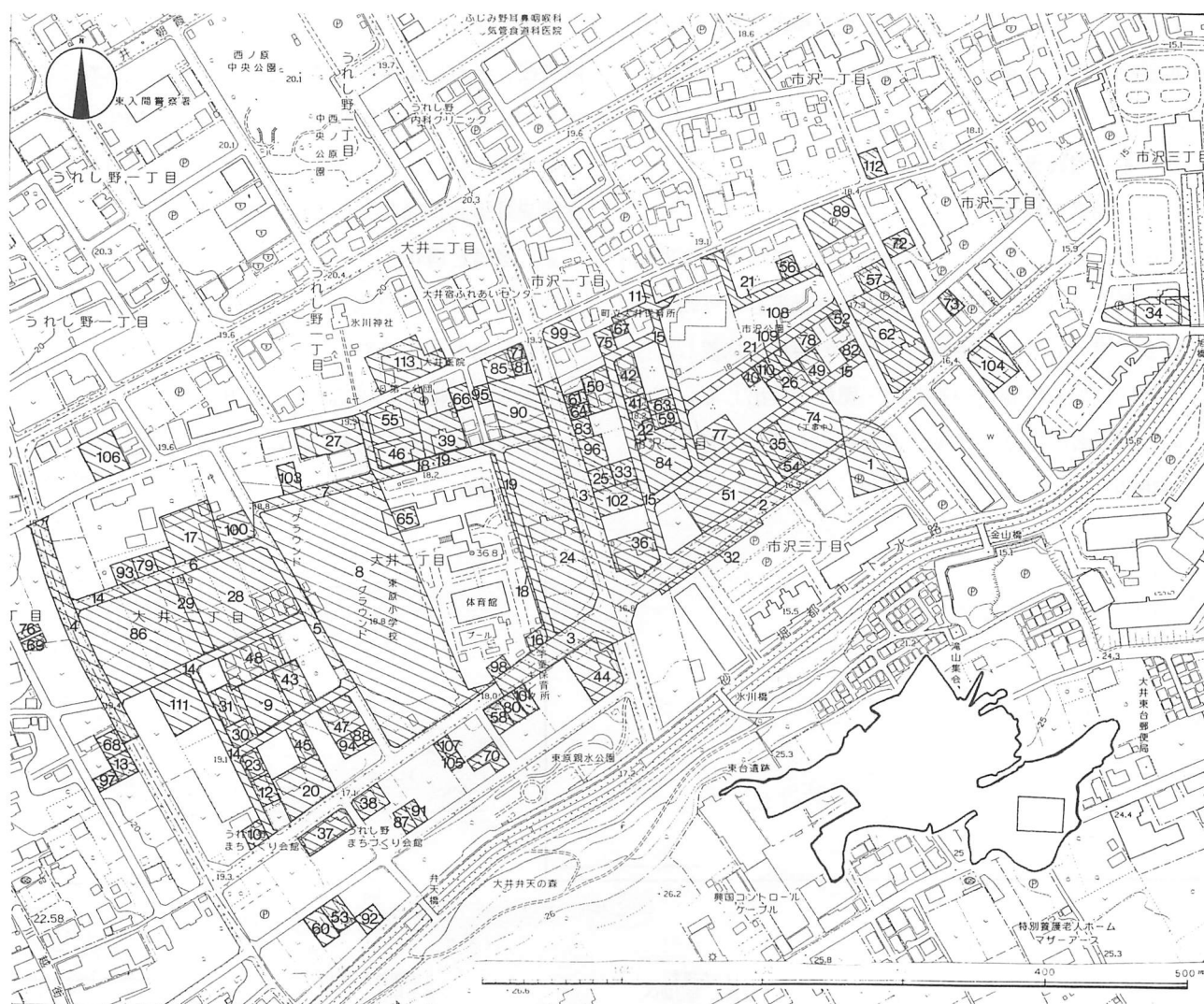
本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15~20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。町内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

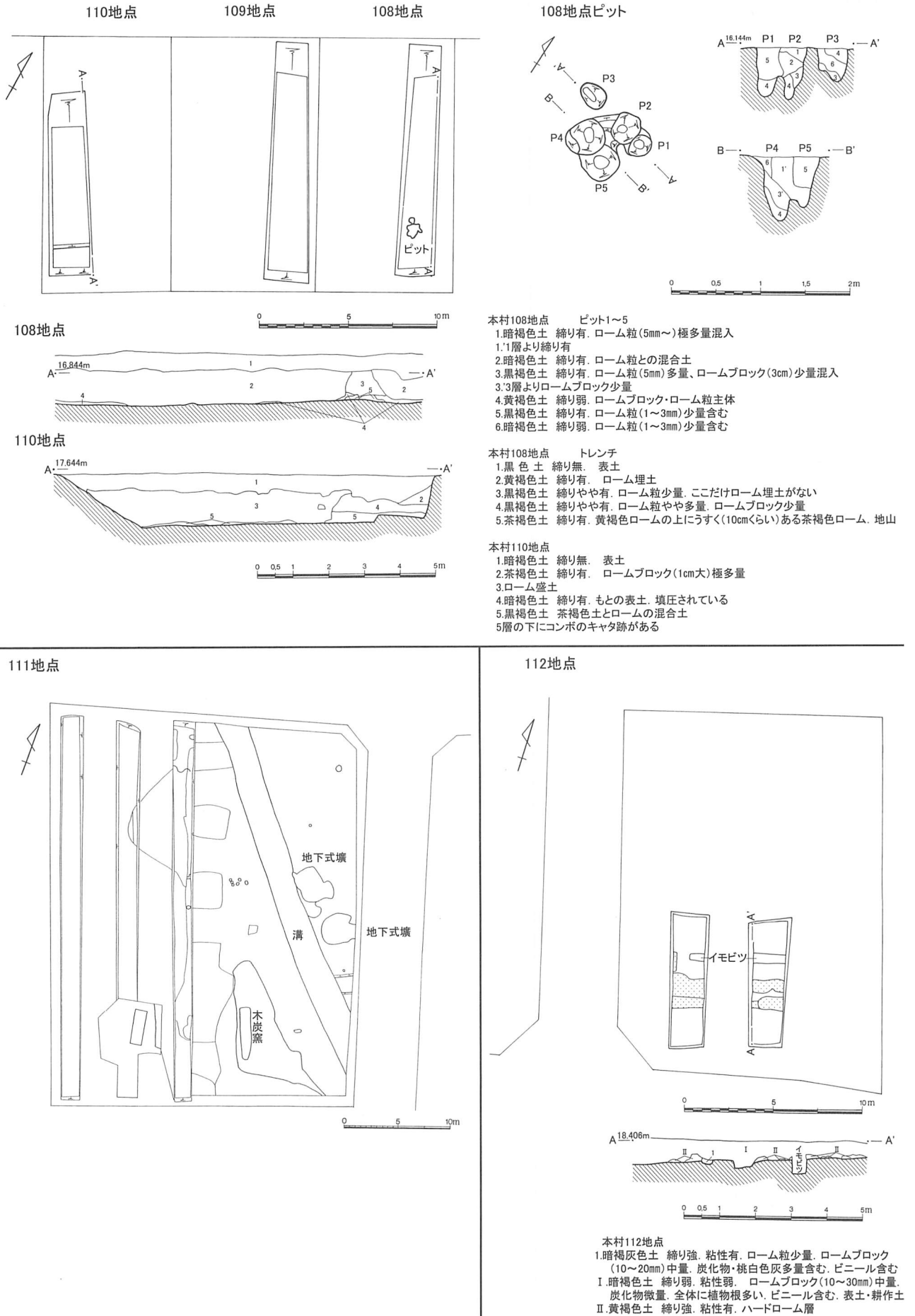
周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることができる。

いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2005年3月現在113地点で調査し、旧石器時代の礫群・石器ブロック、縄文時代の落し穴・炉穴、中世～近世の掘建柱建物・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式塋・茶毘跡等を多数検出している。



第94図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000)



第100図 本村遺跡第108・109・110・111・112地点遺構配置図(1/500・1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)

13 本村遺跡第111地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2003年10月24日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請地は遺跡範囲の中央に位置するため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2003年11月4日から同年11月20日まで行なった。幅約2mのトレンチを6本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、溝等の遺構を多数検出した。原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は2003年11月21日から2003年12月11日まで、大井町遺跡調査会が行い、時期不明の木炭窯1基、中世の溝1条、地下式竈2基、土坑2基、ピットを検出した。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定)

年6月11日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外で東端隣接地に位置しているため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2004年7月27日に行なった。幅約2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なったが、イモビツ以外に遺構・遺物の検出はなかった。確認面まで50~60cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない調査を終了した。

15 本村遺跡第113地点

(1) 調査の概要

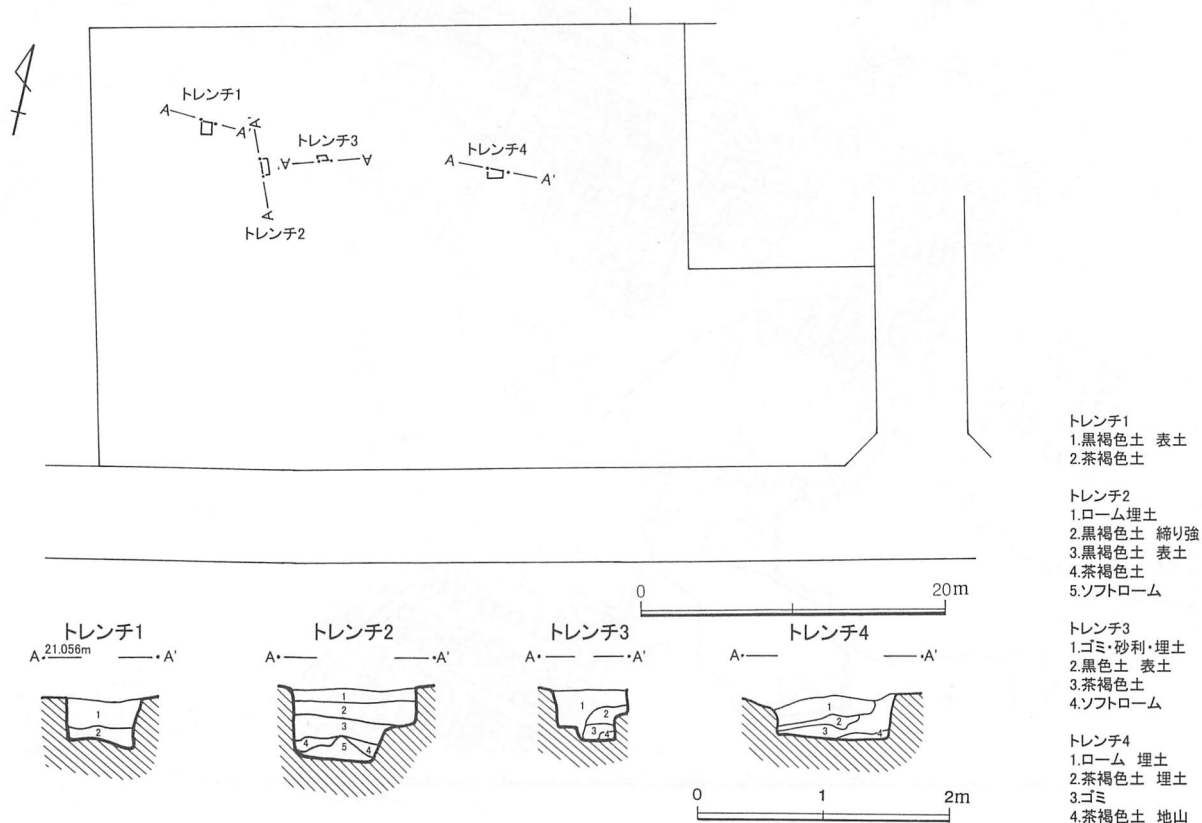
調査は駐車場敷設に伴うもので、原因者より2002年9月2日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外で北端隣接地に位置しているため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2002年8月22日に行なった。幅約50cmのトレンチ4本を設定し、人力で表土除去と表面精査を行なったが、遺構・遺物は確認されなかった。確認面まで50~60cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない調査を終了した。

14 本村遺跡第112地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2004



第101図 本村遺跡第113地点調査区域図 (1/500)、土層 (1/60)



本村遺跡第105地点試掘調査



本村遺跡第106地点試掘調査



本村遺跡第107地点試掘調査



本村遺跡第107地点溝



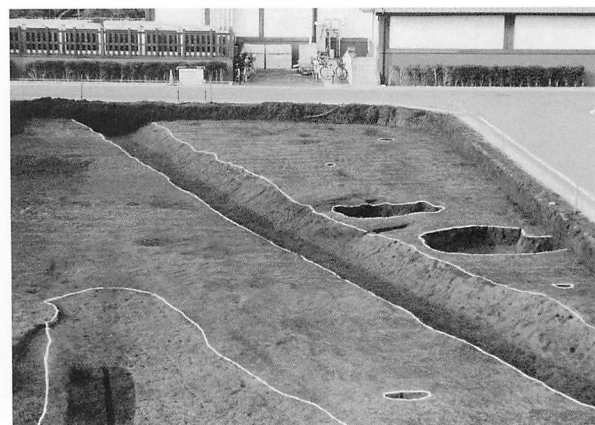
本村遺跡第108・109地点試掘調査



本村遺跡第110地点試掘調査



本村遺跡第111地点試掘調査



本村遺跡第111地点本調査



本村遺跡第111地点溝（南から）



本村遺跡第111地点地下式坑 2

理 事	木村常次	(大井町都市整備課課長補佐)	平成14年7月1日～平成16年6月30日
	佐藤啓子	(大井町文化財保護審議委員)	平成14年7月1日～平成21年9月30日
	高山 稔	(大井町企画財政課課長補佐)	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	飯塚泰子	(ふじみ野市臨時的任用職員)	平成15年4月1日～平成21年9月30日
	松澤和喜	(大井町都市整備課課長補佐)	平成16年4月1日～平成17年3月31日
	細谷孝之	(大井町企画財政課課長補佐)	平成16年4月1日～平成17年9月30日
	福馬 晃	(大井町都市整備課課長補佐)	平成17年4月1日～平成17年9月30日
	比嘉洋子	(ふじみ野市文化財保護審議会委員)	平成17年10月1日～平成21年9月30日
監 事	塩野賀一	(大井町文化財保護審議委員)	平成15年4月1日～平成21年9月30日
	雪平正雄	(大井町会計課長)	平成16年7月1日～平成17年3月31日
	馬場建次	(大井町会計課長)	平成17年4月1日～平成17年9月30日
	近藤 朗	(ふじみ野市出納室主幹)	平成17年10月1日～平成19年3月31日
	坂田秀樹	(ふじみ野市副参事兼会計管理者)	平成19年4月1日～平成21年3月31日
事務局	鈴木 良	(ふじみ野市副参事兼会計管理者)	平成21年4月1日～平成21年9月30日
	事務局長	金子忠弘 (大井町生涯学習課長、ふじみ野市生涯学習課長)	
			平成12年4月1日～平成17年12月31日
		原田 昇 (ふじみ野市副参事兼生涯学習課課長)	平成18年1月1日～平成20年3月31日
		田中節子 (ふじみ野市生涯学習部次長兼生涯学習課長)	平成20年4月1日～平成21年3月31日
		綾部 誠 (ふじみ野市生涯学習部次長兼生涯学習課長)	平成21年4月1日～平成21年9月30日
	事務局次長	坪田幹男 (大井町生涯学習課文化財保護係長)	平成15年4月1日～平成16年3月31日
		(ふじみ野市生涯学習課文化財保護係長)	平成19年4月1日～平成21年9月30日
		上田範文 (大井町生涯学習課文化財保護係長)	平成16年4月1日～平成17年3月31日
		島田喜吉 (大井町生涯学習課文化財保護係長)	平成17年4月1日～平成17年9月30日
事務局員		高崎直成 (ふじみ野市生涯学習課文化財保護係)	平成1年4月1日～平成21年9月30日
		鍋島直久 (ふじみ野市生涯学習課文化財保護係)	平成3年4月1日～平成21年9月30日
		神木よし美 (大井町生涯学習課文化財保護係)	平成15年4月1日～平成17年3月31日
		高橋京子 (平成17年10月1日よりふじみ野市教育委員会臨時任用職員)	平成11年5月13日～平成21年9月30日

凡 例

1. 本書の遺構挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 縮尺はその都度図中に示している。
- (2) 遺構断面図の水糸高は海拔を示す。
- (3) 遺構図における screen-tone の指示は以下のとおりである。また、遺物出土状況のドットの指示はその都度図中に示している。



地 山



攪 乱



焼 土



遺 物



石



炭化物・層

2. 本書の遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 遺物番号は地点ごとに1からはじまる。
- (2) 土器・陶磁器実測図中における遺物の中心線上の▼印は反転実測を表す。また、断面図の細い▲印は釉ハギ部分を示す。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

第3章 本村遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境（第20図、第9表）

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良・平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることができる。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2009年6月現在121地点で調査を行ない、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落し穴・炉穴・集石、中世～近世の掘建柱建物・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式坑・茶毘跡・土壌墓群等を多数検出している。



第20図 本村遺跡の地形と調査区（1/5,000）

第9表 本村遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	報告書	地点	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	報告書
1	市沢2-10, 3-1, 3-2(弁天後1)	1985. 8. 27～8. 30	2, 000	農地転用	なし	なし	56	大井302-1	1996. 7. 24～8. 7	243	個人住宅	地下式坑1(21地点で確認の地下式坑)	大調12
2	大井280-1他(弁天後2)	1987. 9. 1～12. 4	2, 500	土地区画整理	旧石器・縄文(集石・落穴・土坑)	大調7	57	大井331	1996. 8. 28～8. 29	300	共同住宅	なし	町内Ⅵ
3	大井111, 113-1, -2, 114-1, 115-1, 282(弁天後3)	1988. 9. 5～1. 13	3, 600	土地区画整理	縄文(落穴・土坑)中世(井戸・土坑・溝・掘立柱建物・地下式坑)	大調7	58	大井279, 282	1996. 12. 24～1997. 1. 9.	284	店舗併用住宅	土坑1	町内Ⅵ
	大井2-20(東原1)	1978. 7. 27～8. 5	40	町史編纂事業	なし	大史12	59	大井365-2	1997. 2. 12	331	共同住宅	なし	町内Ⅵ
	大井2-20(東原2)	1979. 4. 29～5. 6	80	町史編纂事業	地下式坑・ビット・土坑	大史12	60	大井129	1997. 6. 2～6. 14	320	分譲住宅	縄集中5・ビット3	町内Ⅶ
	大井2-20(東原3)	1980. 12. 25～1. 5	130	町史編纂事業	地下式坑・ビット・土坑	大史12	61	大井76	1997. 6. 4～6. 14	134	個人住宅	井戸1	町内Ⅶ
4	大井189, 190, 191, 192(東原4)	1987. 12. 8～1. 29	1, 872	土地区画整理	縄文(落穴)・中世(井戸・第六天)	大調7	62	大井342	1997. 10. 21～1998. 1. 20	391	共同住宅	旧石器(縄群1)・縄文(落穴)・中世(井戸5・溝16・土坑98・櫛列2・ビット・地下式坑2・掘立柱建物・堅穴状遺構)	大調12
5	大井143, 144-2(東原5)	1989. 1. 13～2. 3	1, 600	土地区画整理	中世(井戸・土坑・溝・掘立柱建物)	大調7	63	大井380	1998. 10. 31～11. 1	154	個人住宅	なし	町内Ⅶ
6	大井149, 160, 164-1(東原6)	1989. 5. 15～6. 30	1, 565	土地区画整理	旧石器縄群・縄文(落穴)中世(土坑・溝)	大調7	64	市沢2-8-2	1998. 10. 13～10. 18	134	個人住宅	ビット1	町内Ⅶ
7	大井134の一部(東原7)	1989. 8. 2～8. 31	500	土地区画整理	諸磯C式土器・堀之内式土器	大調7	65	大井110-2	1998. 4. 16～5. 21	391	学校増築	旧石器(縄群5)中世(溝1・土坑2・ビット13)	大調12
8	大井134	1989. 9. 30～1991. 7. 11	13, 161	小学校グラウンド	縄文(落穴)・中世(中世・土坑・溝・掘立柱建物)	大調4	66	大井2-8-8,-9	1999. 2. 7～2. 16	179	駐車場	近世以降の溝・ビット	町内Ⅶ
9	大井138	1989. 12. 4	200	ゲートボール場	盛土保存	東部X	67	市沢2-1-4	1999. 3. 25～3. 26	140	個人住宅	なし	町内Ⅶ
10	大井172-1	1989. 2. 21～2. 28	500	範囲確認調査	縄文(落穴)	東部X	68	大井182	1999. 4. 17～4. 21	302	個人住宅	落穴1	町内Ⅶ
11	大井82-3	1990. 2. 7～2. 22	370	範囲確認調査	旧河道の北側落ち込み	東部X	69	大井1-4-5	1999. 8. 24	116	個人住宅	なし	町内Ⅶ
12	大井240, 241-4	1990. 5. 8～5. 9	340	個人住宅	土坑・常滑片	東部XI	70	大井2-12-7	1999. 9. 4	354	個人住宅	縄文ビット1	町内Ⅶ
13	大井180	1990. 7. 25～7. 26	428	個人住宅	土坑	東部XI	71	大井2-7-3	1999. 10. 12	116	個人住宅	ビット	町内Ⅶ
14	大井151, 152, 154～157	1990. 9. 17～10. 31	2, 160	土地区画整理	井戸2・土坑36・溝4	大調7	72	市沢2-12-12	1999. 11. 12	210	駐車場	ビット	町内Ⅶ
15	大井100, 106～109, 344	1990. 10. 1～11. 30	2, 820	土地区画整理	井戸13・土坑26・溝6・掘立柱建物1	大調7	73	市沢2-14-1	1999. 11. 12	156	個人住宅	なし	町内Ⅶ
16	大井110-2	1990. 11. 6～12. 2	230	学童保育所	井戸1・溝2	東部XI	74	大井108-2, 3, 6, 7	1999. 2. 8～2. 17	1, 495	共同住宅	中世(溝4・土坑2・ビット18・櫛列1)	町内Ⅶ
17	大井146, 149	1991. 1. 7～3. 7	1, 270	事務所	旧石器(縄群・ブロック6)縄文(炉穴4・土坑2)・中世(櫛列・溝2・地下式坑1・段切)	大調3	75	市沢2-1-2	1999. 1. 18	224	個人住宅	なし(地山は水成堆積した黒色土)	町内Ⅶ
18	大井110	1991. 4. 1～6. 11	252	フェンス工事	旧石器(縄群2)・中世(井戸6・溝4・地下式坑5・土坑15)	大調3	76	大井1-4-6	1999. 5. 15～5. 18	118	個人住宅	なし	町内Ⅸ
19	大井110-2	1991. 4. 1～6. 11	1, 420	土地区画整理	旧石器(縄群2)・中世(井戸6・溝4・地下式坑5・土坑16)	大調7	77	市沢2-6-18,-19	1999. 7. 27～8. 2	538	駐車場	ビット1	町内Ⅸ
20	大井253-1	1991. 5. 21～6. 14	1, 150	個人住宅	井戸2・土坑3・溝1	町内Ⅰ	78	市沢2-6-6	1999. 9. 20	158	個人住宅	ビット1	町内Ⅸ
21	大井81-3, 364	1991. 6. 17～8. 31	1, 772	土地区画整理	井戸1・溝6・地下式坑2・土坑6・柱穴列	大調7	79	大井2-19-9	1999. 10. 22～10. 30	642	個人住宅	集石土坑1・ビット2	町内Ⅸ
22	大井108, 109	1991. 7. 15～7. 31	110	個人住宅	縄文土器・石器・陶器・磁器・ガラス・瓦・板碑・針金	町内Ⅰ	80	大井2-11-2	1999. 10. 26～10. 30	204	個人住宅	縄文(土坑2・ビット1)	町内Ⅸ
23	大井169	1991. 8. 29～8. 30	268	個人住宅	溝1	町内Ⅰ	81	大井2-7-3	1999. 12. 8～12. 10	117	個人住宅	なし	町内Ⅸ
24	大井110-2	1992. 2. 28～7. 31	4, 646	土地区画整理	旧石器(縄群)・中世(井戸24・地下式坑10・掘立柱建物・溝6・土坑40)	大調7	82	大井2-6-11	1999. 12. 9～12. 10	171	個人住宅	なし	町内Ⅸ
25	大井107	1992. 5. 21	370	倉庫	ビット	町内Ⅱ	83	市沢2-8-4	1999. 12. 9～12. 13	181	個人住宅	なし	町内Ⅸ
26	大井348, 369, 370の一部	1992. 10. 4～10. 7	576	個人住宅	なし	町内Ⅱ	84	市沢2-7-6	2000. 2. 2～3. 6	1, 310	共同住宅	縄文(落穴1)・中世(段切・井戸2・茶見跡1・掘立柱建物10・土坑26・溝2・櫛列2)	大調15
27	大井145	1992. 10. 27	1, 101	個人住宅	なし	町内Ⅱ	85	大井2-7-2	2000. 1. 6	409	個人住宅	なし	町内Ⅸ
28	大井21-2, 137, 143, 150, 156, 159, 373-1	1992. 12. 1～2. 28	4, 358	土地区画整理	縄文(土坑)・中世(段切2・井戸3・地下式坑7・掘立柱建物・土坑3)・近世(土坑墓6)	大調7	86	大井2-19-1～4, 1-14	2000. 5. 15～6. 29	5, 745	公衆浴場	古代(木炭窯)・中世(掘立柱建物跡1・段切)・地下式坑5・井戸6・溝13・茶見跡3・土坑壘97・櫛列2・ビット531)	大調15
29	大井159	1993. 5. 20～6. 4	330	土地区画整理	地下式坑3・ビット・土坑	大調7	87	大井2-12-2	2000. 5. 31～6. 3	165	個人住宅	旧河川流域路・ビット3	町内Ⅸ
30	大井155	1994. 7. 28～8. 30	411	個人住宅	溝1・土坑1・ビット25	町内Ⅲ	88	大井2-17-6	2000. 6. 27～7. 3	154	個人住宅	用水路	町内Ⅸ
31	大井154, 155	1994. 8. 4～	484	共同住宅	井戸2・地下式坑2・溝1・土坑14	大調7	89	市沢2-11-1,-2	2000. 7. 19～8. 1	326	分譲住宅	縄文(落穴1)・イモビツ	町内Ⅸ
32	大井351	1994. 11. 9～11. 25	14, 310	共同住宅	縄文(落穴)	町内Ⅲ	90	大井2-7-4,-5	2000. 8. 31～9. 22	540	店舗	縄文(集石1)・近世(溝)	町内Ⅸ
33	大井107, 427-1	1994. 11. 11	337	駐車場	段切状遺構・土坑	町内Ⅲ	91	大井2-12-2	2000. 9. 25～9. 27	37	個人住宅	旧河川流域路	町内Ⅸ
34	大井533-5	1994. 12. 2～12. 3	1, 013	共同住宅	なし	町内Ⅲ	92	大井2-14-11	2000. 10. 10	25	個人住宅	旧河川流域路	町内Ⅸ
35	大井357-1	1994. 4. 4～4. 12	452	共同住宅	なし	町内Ⅳ	93	大井2-20-9	2001. 2. 16～2. 21	283	社員寮	ビット	町内Ⅸ
36	大井101-9-10	1994. 9. 2～10. 31	890	共同住宅	旧石器(縄群2)・縄文(落穴・土坑)・中世(井戸2・溝3・土坑16・櫛列・ビット)	大調12	94	大井2-18-6	2001. 2. 20～3. 6	87	個人住宅	中世(溝6・土坑1・ビット7) 近世(溝4)	町内Ⅸ
37	大井251	1994. 8. 31～9. 2	596	事務所	なし	町内Ⅳ	95	大井2-7-10	2001. 3. 6～3. 9	41	個人住宅	なし	町内Ⅸ
38	大井253	1994. 8. 30～9. 7	264	個人住宅	中世～近世の溝1	町内Ⅳ	96	市沢2-8-5	2001. 7. 10～7. 13	99	個人住宅	なし	町内Ⅸ
39	大井124-1	1994. 11. 9～11. 16	805	共同住宅	なし	町内Ⅳ	97	大井1-7-11	2001. 7. 11～7. 12	41	個人住宅	なし	町内Ⅸ
40	大井321-1	1994. 11. 22	131	宅地分譲	なし	町内Ⅳ	98	大井2-9-3	2001. 12. 17～12. 19	17	学童保育所	溝2	町内Ⅸ
41	大井325	1994. 11. 29～12. 7	614	宅地分譲	近代のゴミ穴	大調12	99	市沢2-1	2002. 7. 1～7. 31	300	共同住宅	旧石器縄群4・石器集中1・中世(土坑4・櫛列1)	大調15
42	大井326	1994. 11. 29～12. 7	614	宅地分譲	近代のゴミ穴	大調12	100	大井2-20-7	2002. 8. 20～8. 26	463	分譲住宅	なし	町内Ⅸ
43	大井153-2, 3	1995. 2. 23～3. 29	704	宅地開発	縄文(土坑)・中世(井戸1・土坑3・溝1・水路跡)	大調12	101	大井2-11-3	2002. 9. 30～10. 4	217	店舗併用住宅	溝	町内Ⅸ
44	大井287-1	1995. 4. 10～5. 25	1, 198	共同住宅	縄文(落穴1・土坑3)・中世(井戸1・溝1・土坑1・櫛列・ビット34)	大調12	102	市沢2-8	2002. 12. 11～03. 2. 10	1, 264	共同住宅	縄文(落穴)・古代以降(井戸7・柱穴列8・溝4・土坑11・道路状遺構)	大調15
45	大井253他	1995. 6. 18～7. 17	324	個人住宅	縄文(落穴1)・中世(溝5・土坑14・ビット23)	町内Ⅴ	103	大井143	2003. 2. 13～2. 18	237	個人住宅	土坑1・ビット1	町内Ⅸ
46	大井126	1995. 6. 1～7. 28	744	共同住宅	中世(土坑15・ビット7・南側旧河床)	大調12	104	市沢3-4-1	2003. 5. 14～5. 30	804	共同住宅	縄文(炉穴4)・中世(段切遺構・地下式坑2・溝3・土坑4・ビット36)	町内Ⅸ
47	大井253, 255	1995. 7. 18～7. 28	608	宅地分譲	土坑2	町内Ⅴ	105	大井2-12-4	2003. 6. 4～6. 6	131	個人住宅	土坑1	町内Ⅸ
48	大井140	1995. 9. 30～11. 20	1, 122	宅地分譲	中世(井戸11・掘立柱建物跡7・溝2・地下式坑3・土坑14・櫛列4・水路)	大調12	106	大井2-1-11	2003. 7. 2～7. 8	135	分譲住宅	なし	町内Ⅸ
49	大井333	1996. 1. 16～2. 3	280	個人住宅	溝1・土坑5・ビット51・北側埋没河川	町内Ⅴ	107	大井2-12-4	2003. 7. 3～7. 5	130	個人住宅	溝1・土坑1・ビット1	町内Ⅸ
50	大井106	1996. 2. 20～2. 24	571	個人住宅	なし	町内Ⅴ	108	市沢2-6-25	2003. 7. 17～7. 23	109	個人住宅	ビット5	町内Ⅸ
51	大井350, 360他	1996. 4. 3～5. 30	2, 412	共同住宅	旧石器・縄文(落穴8・集石土坑2)・中世(井戸2・土坑1・櫛列)	大調12	109	市沢2-6-26	2003. 7. 17～7. 23	114	個人住宅	なし	町内Ⅸ
52	大井328	1997. 4. 10～4. 25	140	倉庫建設	地下式坑3・掘立柱建物1・土坑6・ビット24	町内Ⅵ	110	市沢2-6-27	2003. 10. 16～10. 18	101	個人住宅	なし	町内Ⅸ
53	大井243-2, 244-1, 289-1	1997. 4. 17～6. 25	275	個人・分譲住宅	縄群1・土坑4・近世溝4	町内Ⅵ	111	大井2-16-2	2003. 11. 21～12. 11	1, 033	分譲住宅	縄文(炉穴1・風倒木痕2)・中世(溝1・地下式坑2・土坑1・木炭窯1・不明遺構1・ビット10)	大調21
54	大井3491-2	1997. 4. 11～4. 17	207	個人住宅	溝	町内Ⅵ	112	市沢1-17-16	2004. 7. 27	289	共同住宅	なし	町内Ⅸ
55	大井125-1, 38-2	1996. 6. 25～7. 31	936	共同住宅	旧石器(石器群2・縄群5)中世(溝1・土坑26・櫛列・焼土跡・ビット21)	大調12	113	大井2-4-8	2002. 8. 22	1, 051	駐車場	なし	町内Ⅸ
							113- b	市沢2-2-3	2005. 5. 9～5. 10	27	個人住宅	櫛列の一部	市内2
							114	市沢3-2-1, 12	2005. 10. 21～10. 28	129	分譲住宅	なし	市内2
							115	市沢2-10-6	2005. 11. 21～06. 1. 31	170	分譲住宅	中世(掘立柱建物跡・井戸・土坑・ビット・溝)	市内2
							116	市沢2-10-4の一部	2006. 1. 17	9	個人住宅	なし	市内2
							117	大井2-11-4, 6	2006. 3. 22～4. 14	1, 487	店舗	溝・土坑・櫛列	市内2
							118	市沢2-12-13	2006. 5. 24～5. 25	80	個人住宅	縄文(落穴1)	市内3
							119	市沢3-4-24	2008. 6. 4～6. 25	559	共同住宅	中世(地下式坑2・土坑16・ビット58)	市内4
							120	市沢2-2-2	2008. 12. 18	141	個人住宅	なし	市内4
							121	市沢2-11-9	2009. 4. 22	150	個人住宅	なし	市内5
							122	市沢2-11-9	2009. 5. 27～5. 29	301	宅地造成	中世(地下式坑)	市内5

大調＝大井町遺跡調査会報告、大史＝大井町史料、東部＝東部遺跡群、町内＝町内遺跡群、市内＝市内遺跡群

2 本村遺跡第111地点

(1) 調査の概要（第21図）

調査は分譲住宅建設に伴うもので、2003年11月4日から11月20日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2003年11月21日から開始し、同年12月11日調査を終了した。遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等を平板測量で実測、写真撮影を行なった。

検出した遺構は縄文時代の炉穴1基、風倒木痕2ヶ所、古代～中世の木炭窯1基、不明遺構1基、中世の溝1条、地下式坑2基、土坑1基、ピット10基である。

(2) 遺構と遺物

① 炉穴（第21・22図、第10表）

調査区東側中央に位置し、風倒木痕2より新しく、南側を地下式坑2に、西側を溝に壊される。出土遺物はないが、土層の観察から縄文時代の可能性が高い。

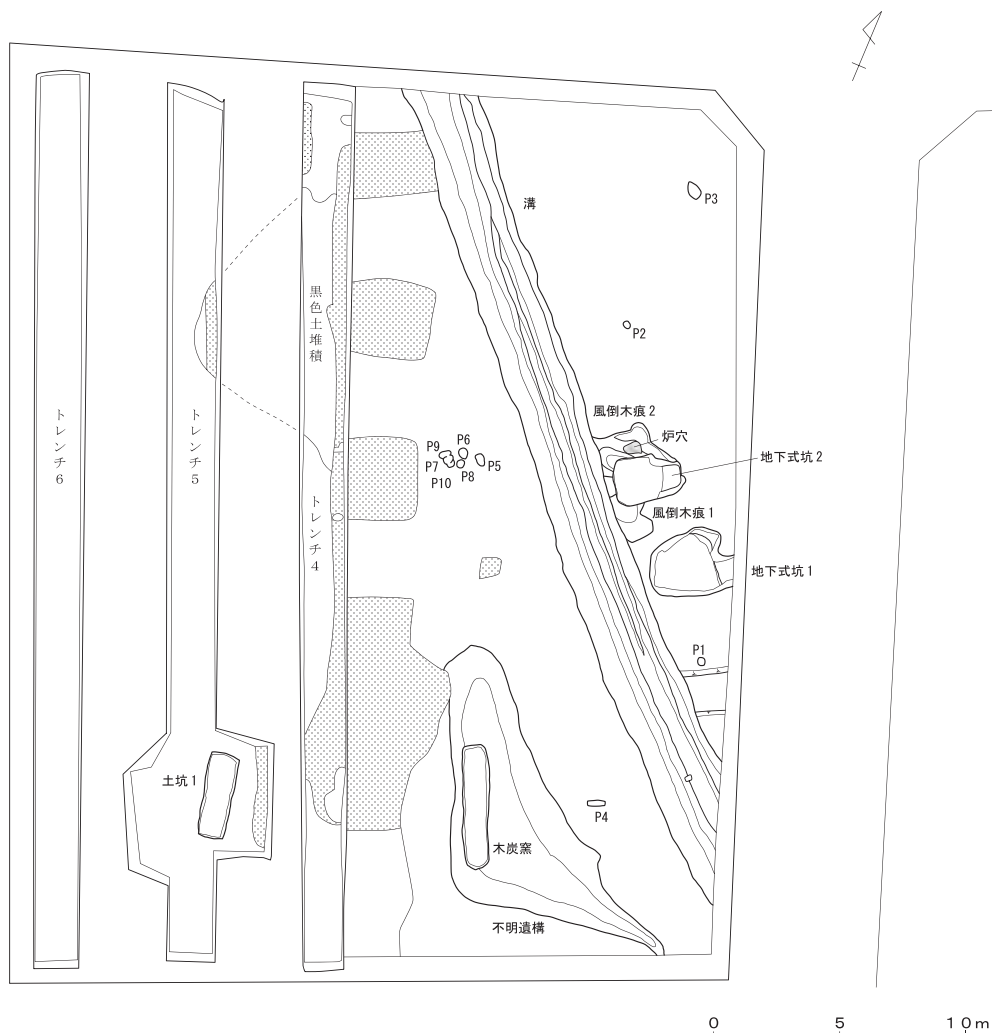
風倒木痕2の覆土中に炉床面があり、70×46cm・厚さ15cmの範囲がレンガ状に硬く焼ける。炉床の西側に足場と思われる窪みが広がる。長軸は176cm以上ある。

② 風倒木痕（第21・22図、第10表）

風倒木痕1・2ともに溝と地下式坑2に壊される。風倒木痕2の覆土上に炉穴が構築される。

③ 木炭窯（第21・23図、第10表）

調査区南側中央寄りに位置する。隅丸の長方形を呈し、長さ500×幅100×深さ30cmを測る。炭化材と焼土塊を多量に含み、壁も一部焼けて赤化している。炭化材は総重量3,115g、0.5～5cm大であるが、大半は2



第21図 遺構配置図（1/300）

cm以下に細かく割れた残骸である。焼土塊は赤、灰、黒色等様々で、焼けた壁土と思われる。北側に径7cm、深さ25cmの小穴が2ヶ所床面にあく。長軸方向では中央が低くなっている。

多量の炭化材出土と壁が焼けた痕跡から、半地下式の木炭窯と思われる。時期は本遺構より新しい不明遺構からカワラケが出土している点や、放射性炭素測定の結果（附編参照）が15世紀前半の値を示していることから、中世の可能性が高いが、700m下流右岸にある東台の製鉄遺跡（8世紀中～9世紀前）との関連性から、下限が古代である可能性も捨てきれない。

④不明遺構（第21・23図、第10表）

調査区南側中央寄りに位置する。木炭窯より新しい。平面形状は隅丸の三角形で、東北側の辺は溝と並行する。西側の辺は木炭窯と並行する。木炭窯に向かって落ち込む浅い池状の様相を呈する。木炭窯に伴う遺構か、木炭窯の埋没過程で生じた何らかの痕跡か、性格は不明である。カワラケが出土する。

⑤溝（第21・25図、第10表）

調査区東側で検出した。調査区の北西と南東に延長し、区画整理道路の事前調査であった14地点で検出した溝13に連なる。溝の北側は14地点で用水路と重複するが、用水路を撤去する際に破壊されている。

3回掘り返しが確認できる。当初の溝幅は290cm、現地表面からの深さ130cm。二回目の溝幅220cm、深さ120cm、最終の溝幅は80cm、現地表面からの深さ100cmで西から東へ移動する。同様な掘り返しは他地点でも確認でき、94地点でも西から東へ移動している。溝の上層で縁軸皿と在地の甕形土器破片が出土した。

⑥地下式坑（第21・24図、第10表）

地下式坑1

調査区の東端中央に位置する。1.6m北西側に地下式坑2がほぼ並行し、0.3m西に溝がある。方形の入口を東側に持ち、調査区外へ続く。入口の掘方は室部より若干深い。貼り床状に硬化した黒色土とロームが堆積し、入口から室部へ向かって傾斜する。室部は不整な四角を呈し、北側に幅110cm、奥行き65cmの張り出し部分がある。覆土に暗茶褐色ローム塊が多量に入り、天井の崩落土と思われる。ローム塊より下の層から多

量の礫が出土した。総数177個、総重量33,485g、100g以下の礫が半数を占めるが、500g以上の礫も7個あり、最大は5,780gの砂岩である。

地下式坑2

調査区の東端中央に位置する。1.6m南東側に地下式坑1がほぼ並行し、0.3m西に溝がある。風倒木痕1・2、炉穴を切る。方形の入口を東側に持ち、室部は方形、入口は傾斜し室部につながる。覆土に暗茶褐色ローム塊が多量に入り、天井の崩落土と思われる。瓦質の片口鉢破片が覆土上層から出土した。礫も47個、総重量9,649g出土した。

⑦土坑・ピット

土坑は調査区南西に1基検出した。時期は不明。長方形で、断面は鍋底形、床面は比較的平坦である。

ピットは10基検出した。P5～10は調査区中央に集中する。（高崎直成）

本村遺跡第111地点の出土遺物（第26図、第12・13表）

総計290点出土しており、そのうち270点、90%以上が焼礫や自然礫である。他には縄文土器・石器および15世紀から19世紀中葉までの遺物が出土しているが、遺存状態が悪く小破片が多い。

1のカワラケは胎土が粉質で、底部から直線的に立ち上がるのが特徴的である。口径対器高の比率は3:1～4:1の間で、この比率を有するカワラケはおおむね内耳の下端部が底部に着かない焙烙に伴う場合が多く、このタイプの焙烙の生産年代が16世紀代を中心とすることから、このカワラケも16世紀代の生産年代が想定される。2の瓦質土器片口鉢は地下式坑2の出土で、口縁部から体部にかけての破片である。口縁部には横ナデが、外面体部には指頭圧痕が残る。断面口縁部の形態から15世紀前半という生産年代が推定される。5は流紋岩製の土州砥で、磨面となっている下側面にタガネ状工具痕が残る。17世紀代の製品であろう。6は1820年代から1860年代にみられる瀬戸・美濃産湯呑み碗である。7は生産地・生産年代とも不明だが砂岩製の砥石で、やや粗いが均質であり粗砥であろう。

（梶原 勝）

第10表 本村遺跡第111地点 遺構一覧表

()内は残存値及び確認された規模、備考欄の写番号は写真図版番号

図版番号	遺構名	形状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	主軸方位	遺物	時期	備考
21・22	風倒木痕1	不整形	(340)	(190)	85	17.80	—		縄文時代か	炉穴・地下式坑2・溝に切られる／写5。
21・22	風倒木痕2	不整形	(250)	(160)	110	17.70	—		縄文時代か	地下式坑2・溝に切られる／写5。
21・22	炉穴	不定形	70(176)	46	22	18.35	—		縄文時代か	平面図には焼土の範囲のみ示した。 風倒木痕2より新／写5。
21・23	不明遺構	L字形	1300	500	10～20	18.10	N-25° -W	○		中央部西側に木炭窯が重複／写6。
21・23	木炭窯	長方形	495	105	30	18.10	N-25° -W	○		不明遺構に上部を切られる／写6。
21・24	地下式坑1	L字形か	(330)	270	80	18.00	N-60° -E	○	中世以降	入口幅：85cm入口奥：(66)cm。 東側は調査区外に延びる。単独／写6。
21・24	地下式坑2	方形	270	180	93	17.67	N-57° -E	○	中世以降	入口幅：93cm入口奥：96cm。 風倒木痕1・2より新／写6。
21・25	溝	—	3450	255～280	北側 48 南側 57	北側 18.26 南側 17.78	N-42° -W	○	中世以降	北側から南側に向かって底部標高は下がる。北側・南側(東壁)は調査区外に延びる。風倒木痕1・2より新／写7。
21・24	土坑1	長方形	340	120	47	18.25	N-11° -W	○	中世以降	単独／写7。

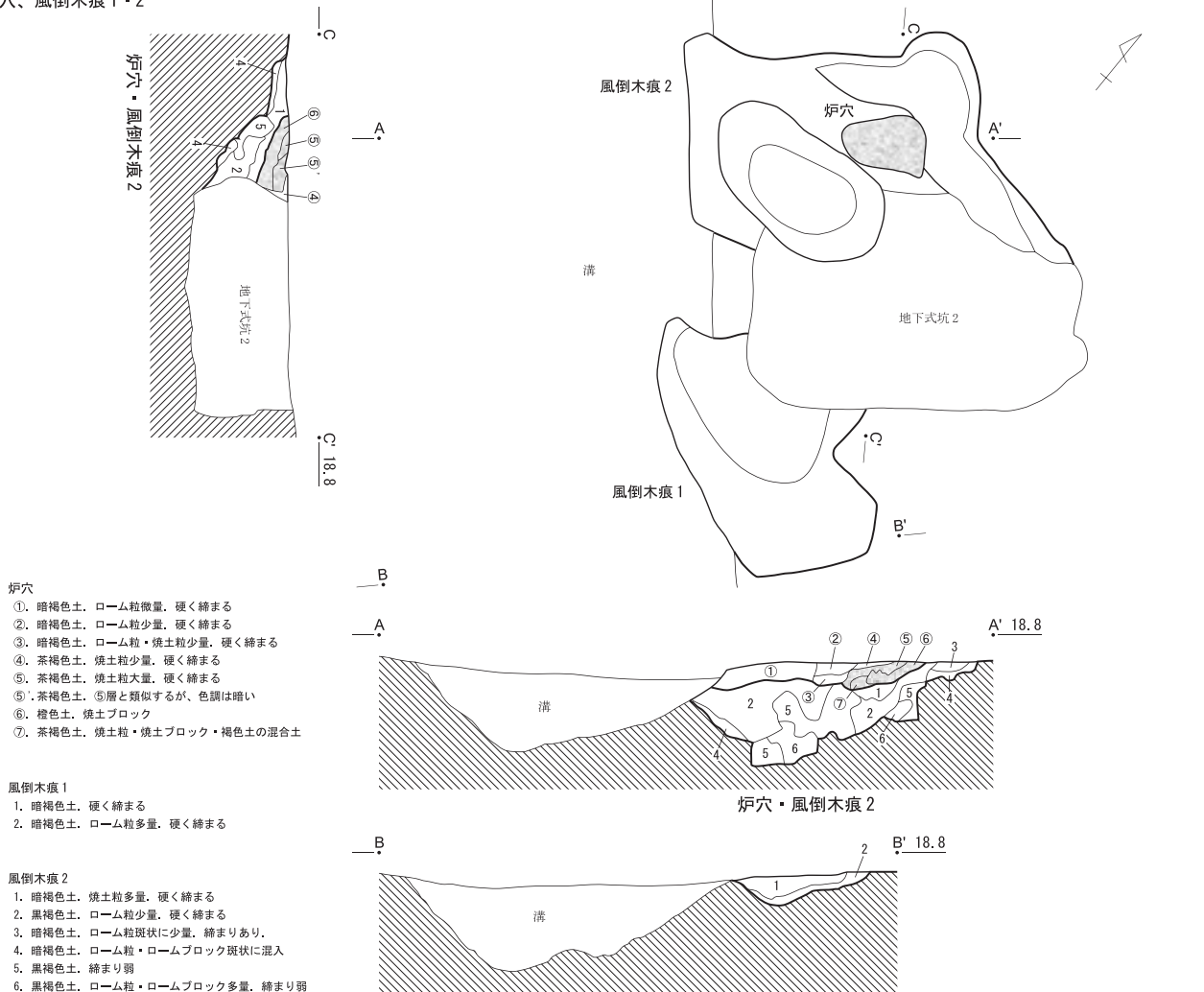
第11表 本村遺跡第111地点 ピット一覧表

()内は残存値及び確認された規模

図版番号	ピット No.	形状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	底部径 長×短(cm)	備考
21・24	1	円形	32	30	52	18.06	(14×12)	単独。
21・24	2	円形	30	26	44	18.26	15×11	単独。
21・24	3	不整形	71	44	36	18.36	(17)×5	単独。
21・24	4	長方形	69	25	23	18.47	12×(9)	単独。
21・24	5	楕円形	49	35	62	18.06	35×26	単独。

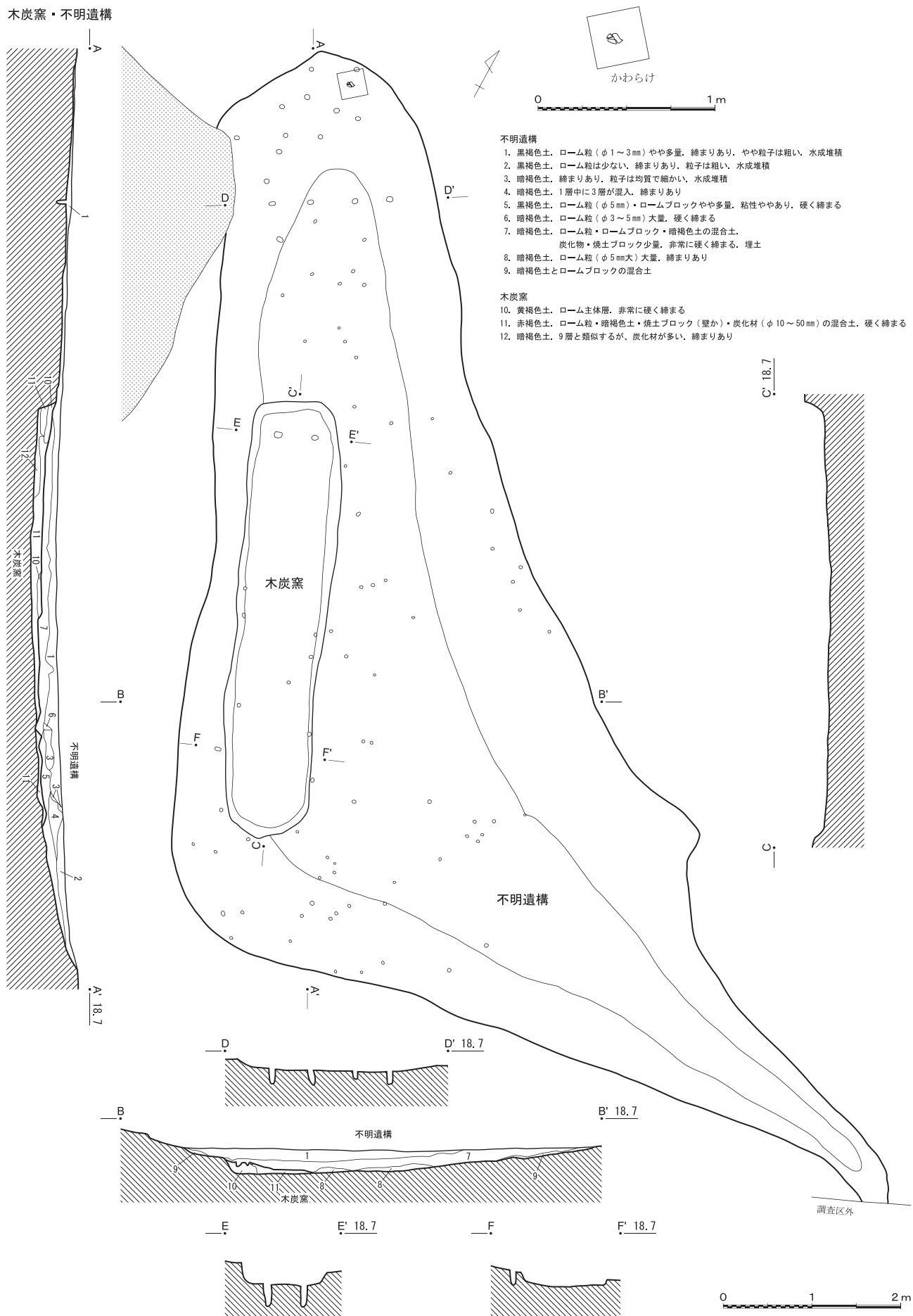
図版番号	ピット No.	形状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	底部径 長×短(cm)	備考
21・24	6	楕円形	44	37	57	18.11	24×20	単独。
21・24	7	不整形	41	(29)	53	18.15	7×6	P9・10より新。
21・24	8	円形	32	29	51	18.17	13×13	単独。
21・24	9	不整形	49	(27)	56	18.12	31×20	P7より旧。
21・24	10	不整形	34	(24)	31	18.31	26×18	P7より旧。

炉穴、風倒木痕1・2



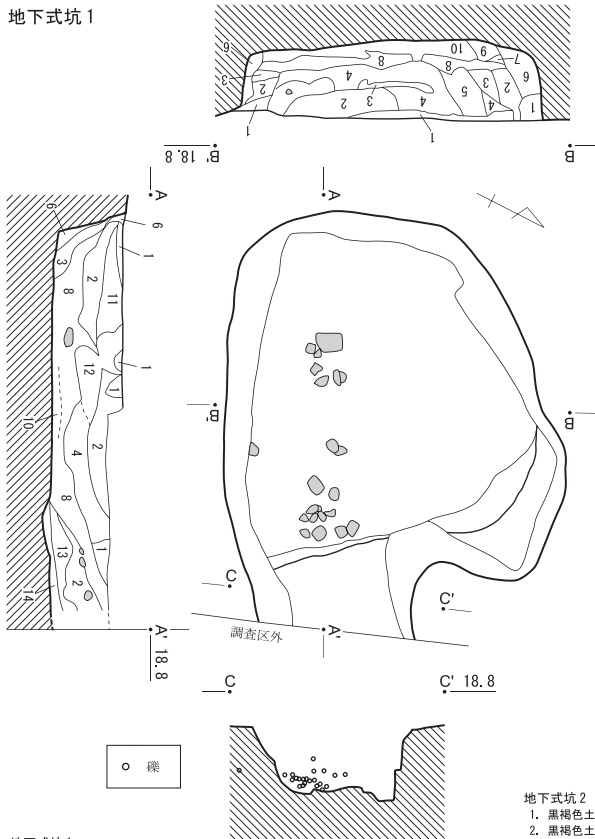
第22図 炉穴、風倒木痕1・2 (1/60)

木炭窯・不明遺構



第23図 木炭窯・不明遺構（1/60）、出土遺物微細図（1/30）

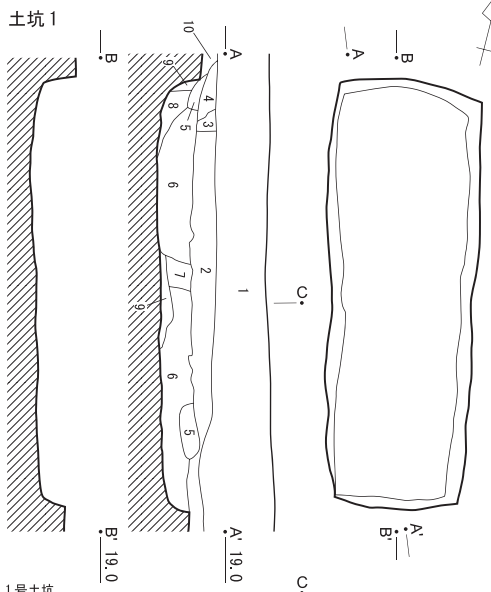
地下式坑 1



地下式坑 1

1. 暗褐色土。ローム粒微量混
2. 暗褐色土。ローム粒微量。暗茶褐色ローム少量
3. 暗褐色土。ローム粒・ローム極少ブロック少量。暗茶褐色ローム多量
4. 暗褐色土。ローム粒微量。暗茶褐色ローム多量
5. 暗茶褐色土。ローム粒少量。ローム微量
6. 暗褐色土。ローム粒多量
7. 暗褐色土。硬質。粘質
8. 黒褐色土。ローム粒・暗茶褐色土多量
9. 黒褐色土。ローム粒・暗茶褐色土極微量
10. 黒褐色土。ローム微量。一部混入
11. 暗褐色土。ローム粒少量
12. 茶褐色土。暗褐色土少量
13. 茶褐色土。12層より暗褐色土がやや多い
14. ロームと黒色土がサンドイッチ状に堆積。硬質

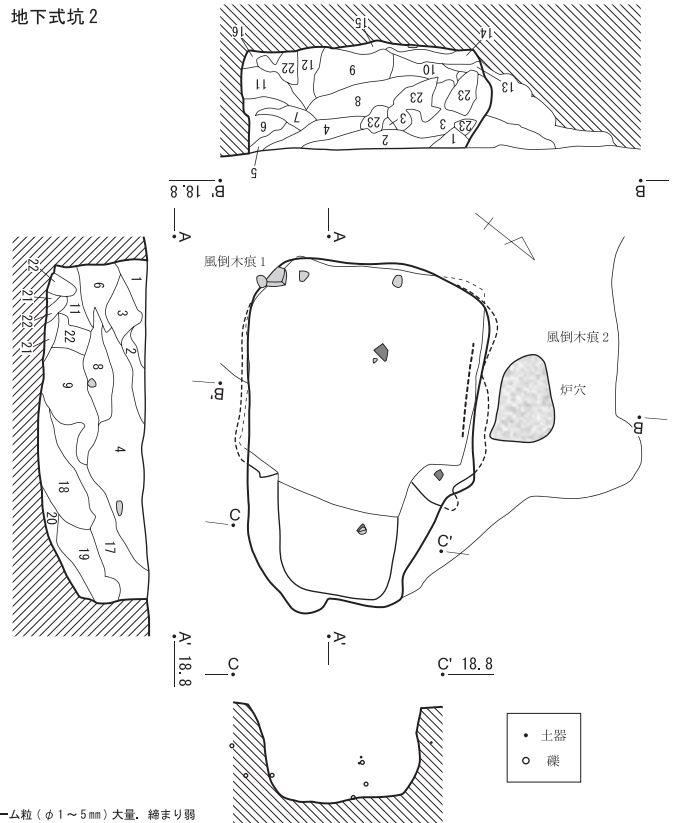
土坑 1



1号土坑

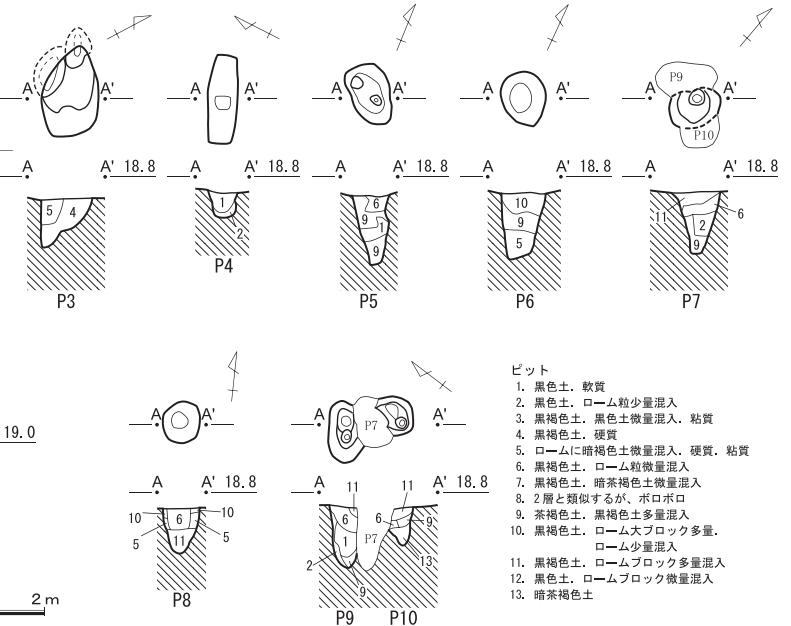
1. 表土・攪乱層
2. 黒褐色土。ローム粒・ローム中ブロック少量。硬質
3. 黒褐色土。ローム・ローム粒微量
4. 黒褐色土。ローム微量。暗茶褐色土多量
5. 黒褐色土。ローム粒多量。暗茶褐色土微量
6. 黒褐色土。ローム中・小粒。ローム極小ブロック多量
7. 黒褐色土。ローム小粒。ローム極小ブロック少量
8. 黒褐色土。ローム極小ブロック微量。軟質
9. 黒褐色土。ローム多量
10. 黒褐色土。ローム少量。暗茶褐色土多量

地下式坑 2



地下式坑 2

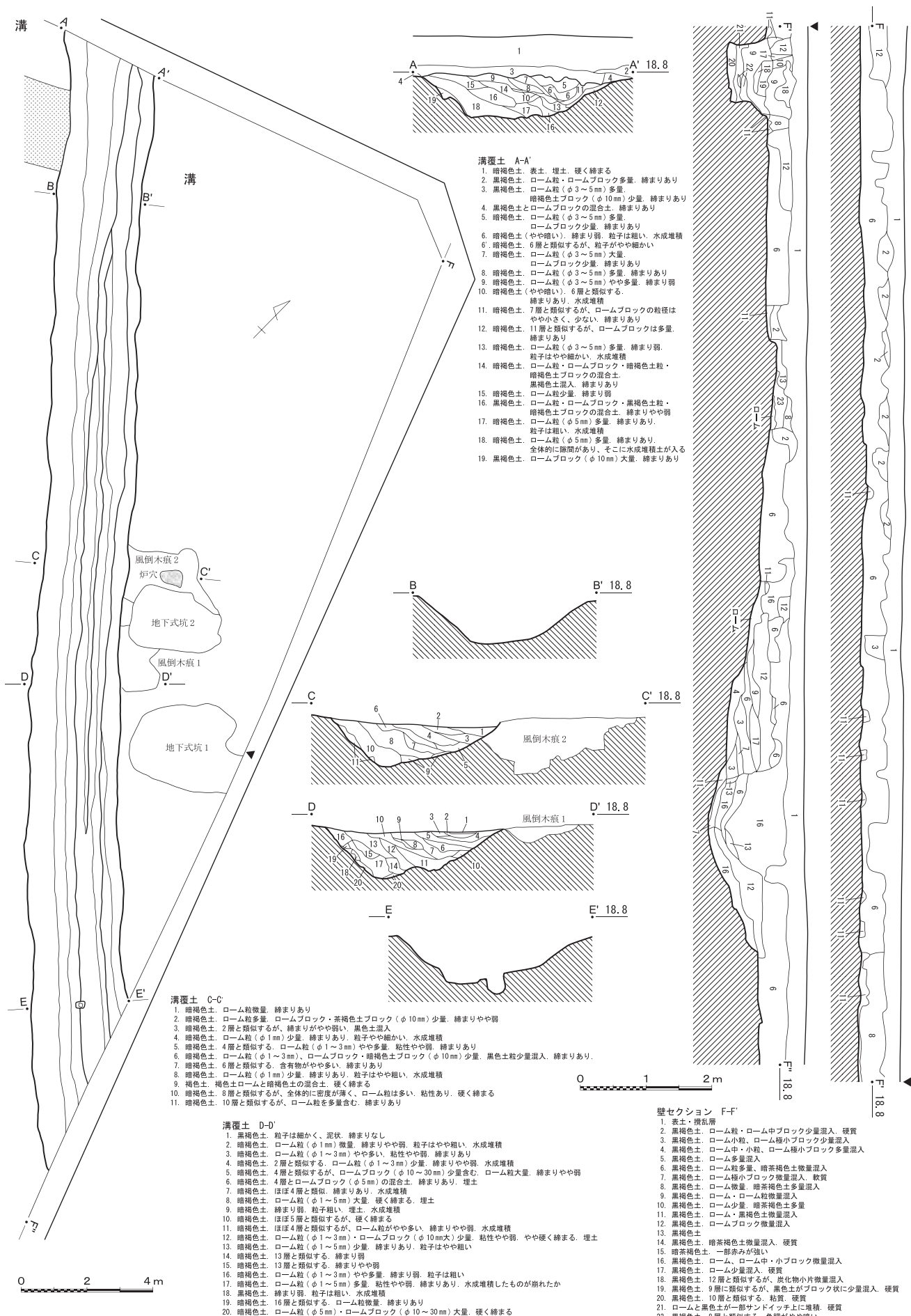
1. 黒褐色土。ローム粒（φ1～5mm）大量。締まり弱
2. 黒褐色土。ローム粒・焼土粒微量。締まりあり
3. 黒褐色土。2層と黄褐色土ブロック（φ50mm）の混合土。締まり弱
4. 黒褐色土。2層と類似する。ローム粒少量。締まりあり
5. 黒褐色土。2層と類似する。ローム粒大量。締まりややあり
6. 褐色土。ローム粒土体層。締まりややあり
7. 黒褐色土。2層にローム粒・黄褐色土ブロック混入。締まりややあり
8. 黒褐色土。2層に黄褐色土ブロック・炭化物少量含む。締まりあり
9. 暗褐色土ブロック。縄文遺構「基」より暗い
10. 黒褐色土。ローム粒（φ1～5mm）・炭化物少量。締まりあり
11. 黒褐色土。ローム粒（φ3～5mm）大量。ロームブロック少量。締まり弱
12. 黒褐色土。11層にロームブロック多量に含む。締まり弱
13. 黒色土。ローム粒と黒色土の混合土。硬く締まる
14. 褐色土。ローム粒と黒色土の混合土。ローム粒の割合が高い。硬く締まる
15. 黒色土。ローム粒少量。硬く締まる
16. 黒色土。15層にロームブロックを含む。締まりあり
17. 黒褐色土。4層と類似する。ローム粒斑状に混入。
18. 黒褐色土。4層と類似する。ローム粒がやや多い。暗褐色土ブロック混入。
19. 黒褐色土。4層と類似するが、締まりが弱い
20. 黒褐色土。10層と類似するが、ローム粒を大量に含む
21. 暗褐色土。硬く締まる
22. ロームブロック
23. 茶褐色土ブロック



ピット

1. 黒色土。軟質
2. 黒色土。ローム粒少量混入
3. 黒褐色土。黒色土微量混入。粘質
4. 黒褐色土。硬質
5. ロームに暗褐色土微量混入。硬質。粘質
6. 黒褐色土。ローム粒微量混入
7. 黒褐色土。暗茶褐色土微量混入
8. 2層と類似するが、ボロボロ
9. 茶褐色土。黒褐色土多量混入
10. 黒褐色土。ローム大ブロック多量。ローム少量混入
11. 黒褐色土。ロームブロック多量混入
12. 黒色土。ロームブロック微量混入
13. 暗茶褐色土

第24図 地下式坑 1・2、土坑 1、ピット (1/60)



第25図 溝 (1/160、1/80)

第12表 本村遺跡第111地点 出土遺物集計表

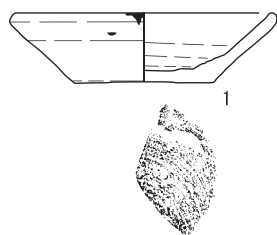
出土地点	種別	数	器種	数	細分名	数
不明遺構	土器	1	カワラケ	1	(燈火皿)	
	縄文土器	1				
	合 計	2				
木炭窯	炭	※	(3115g)			
	自然遺物	20	礫	20	(1913g)	
	合 計	20				
地下式坑1	縄文土器	2				
	自然遺物	187	礫	187	(33485g)	
	合 計	189				
地下式坑2	土器	7	片口鉢	3	(瓦質)	
			不明	4		
	自然遺物	46	焼礫	1	(106g)	
			礫	45	(9546g)	
	合 計	53				

出土地点	種別	数	器種	数	細分名	数
溝	陶器	1	皿	1	縁釉皿	1
	土器	2	甕	1		
			不明	1		
	石器	1	打製石斧	1		
	自然遺物	11	礫	11	(900g)	
	合 計	15				
土坑1	自然遺物	5	礫	5	(823g)	
	合 計	5				
トレンチ3	石製品	1	砥石	1		
	合 計	1				
トレンチ5	磁器	1	碗	1	湯呑み碗	1
	陶器	1	碗	1	斑掛け碗	1
	合 計	2				
トレンチ6	磁器	1	碗	1	湯呑み碗	1
	石製品	1	砥石	1		
	自然遺物	1	礫	1		
	合 計	3				
総 計				290		

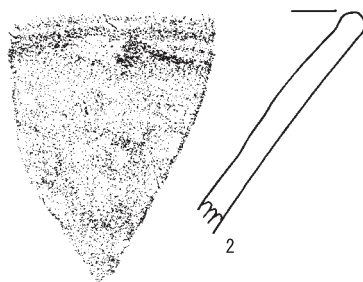
第13表 本村遺跡第111地点 出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	遺構名 出土地点	種別・器種 細分等	単位cm 推定* 残存()			技法／文様／その他	推定生産地	推定年代	残存／備考
				口径	底径	器高				
26	1	不明遺構	土器・カワラケ	*10.8	*6.4	3.0	ロクロ成形、糸切底（右）／口唇部煤付着、胎土；粉質	在地		
	2	地下式坑2	土器(瓦質)・ 片口鉢	—	—	—	紐積み成形／体部指頭圧痕、胎土；軟質、小石・砂粒含	在地	14世紀末～ 15世紀前半	口縁部～体部
	3	溝	陶器・皿 縁釉小皿	*11.8	—	(1.8)	ロクロ成形／口縁部のみ灰釉／外面底回転削り(左)	瀬戸・美濃	15世紀	破片
	4	溝	石器・打製石斧	長さ (8.3)	幅 (6.1)	厚さ 1.8	打製石斧／石材；砂岩、分銅型／89.8g	不明	縄文時代	基部欠
	5	トレンチ3	石製品・砥石	長さ 8.25	幅 3.0	厚さ 2.3	鎌砥／石材；流紋岩、全面砥面	上州		1/2以上
	4	トレンチ5	磁器・湯呑み碗	(6.0)	(3.4)	5.0	ロクロ成形／染付、畳付無釉、体部よろけ縞文、 高台一重圏線、内面口縁部二重圏線	瀬戸・美濃	1820年代～ 1860年代	1/2以下
	5	トレンチ6	石製品・砥石	長さ (7.8)	幅 4.4	厚さ 2.0	鎌砥／石材；砂岩、縁部煤付着、5面砥面	不明		1/2以上

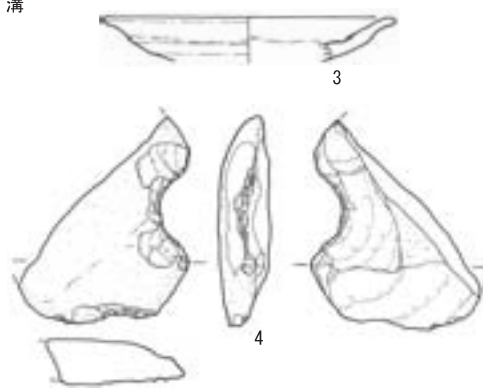
不明遺構



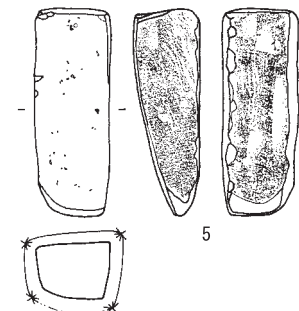
地下式坑2



溝



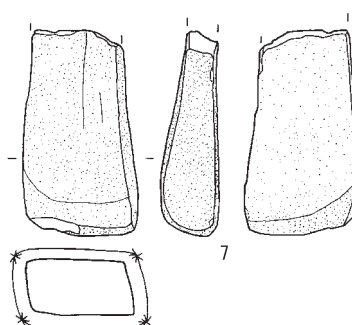
トレンチ3



トレンチ5



トレンチ6



0 10cm

第26図 出土遺物

附 編 自然科学分析

本村遺跡第111地点における放射性炭素年代（AMS 測定）

株式会社 加速器分析研究所

1 測定対象試料

本村遺跡第111地点は、埼玉県ふじみ野市大井 2-16-2（北緯35° 51′ 05″、東経139° 31′ 04″）に所在する。測定対象試料は、木炭窯11層より採取した炭化物（I 区下層：IAAA-90423）、1点である。

2 測定の意義

木炭窯の操業年代を推定する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA: Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1 N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1 N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が1 N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1 N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4 測定方法

測定機器は、3 MV タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期（5568年）を使用する（Stuiver and polash 1977）。
- (2) ¹⁴C 年代（Libby Age: yrBP）は、過去の大気中¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C 濃度（¹³C / ¹²C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により¹³C / ¹²C を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal 04 データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCal v 4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

6 測定結果

本村遺跡の第111地点 I 区下層試料の ^{14}C 年代は $480 \pm 30 \text{ yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は 15 世紀前半の値を示している。

炭素含有率が 70% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-90423	I 区下層	本村遺跡第111地点 木炭窯 11層	木炭	AAA	-28.64 ± 0.49	480 ± 30	94.16 ± 0.29

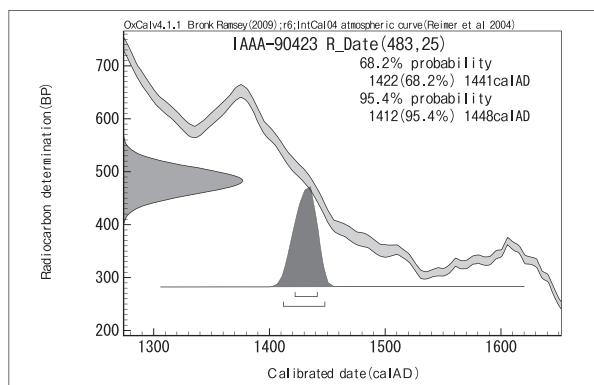
[#2979]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-90423	540 ± 20	93.45 ± 0.28	483 ± 25	1422AD - 1441AD (68.2%)	1412AD - 1448AD (95.4%)

[参考値]

【参考文献】

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion : *Reporting of ^{14}C data*, *Radiocarbon* 19, 355–363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, *Radiocarbon* 37 (2), 425–430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43 (2A), 355–363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 ‘Wiggle Matching’ radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43 (2 A), 381–389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal 04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0–26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029–1058



【参考】 暦年較正年代グラフ

本村遺跡出土炭化材の樹種

パリノサーヴェイ株式会社

本村遺跡第111地点

はじめに

本村遺跡は、新河岸川右岸で、新河岸川に注ぐ砂川堀左岸の台地上に立地する。これまでの発掘調査では、旧石器時代の礫群、石器ブロック、縄文時代の落とし穴、炉穴、中世～近世の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構、井戸、溝、柵列、地下式墳、茶臼跡等が検出されている。

本報告では、第111地点の調査で検出された古代の木炭窯から出土した炭化材の樹種を明らかにするための樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、木炭窯から出土した炭化材である。合計3試料ある中から、年代測定と同一の試料1点について同定を実施する。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東（1982）および Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3. 結果

炭化材は、コナラ節に同定された。解剖学的特徴等を記す。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

4. 考察

木炭窯は、第111地点の調査区南側中央寄りから検出されている。床面は隅丸長方形（長さ500×幅100×深さ30 cm）を呈し、炭化材と焼土塊を大量に含み、壁も一部に被熱の痕跡が見られる。形状から半地下式の木炭窯と考えられている。炭化材は、0.5～5 cm大で、多くは2 cm以下に細かく割れた残骸とされる。

炭化材は、落葉広葉樹のコナラ節に同定された。コナラ節には、コナラ、ミズナラ、カシワ、ナラガシワの4種がある。現在の関東地方の平野部ではコナラのみが自生しているが、過去にはナラガシワも分布していたことが明らかとなっている。コナラ節は、いずれも重硬で強度が高く、薪炭材としてはクヌギ節に次ぐ良材とされており、木炭として優良な木材を利用していたことが推定される。

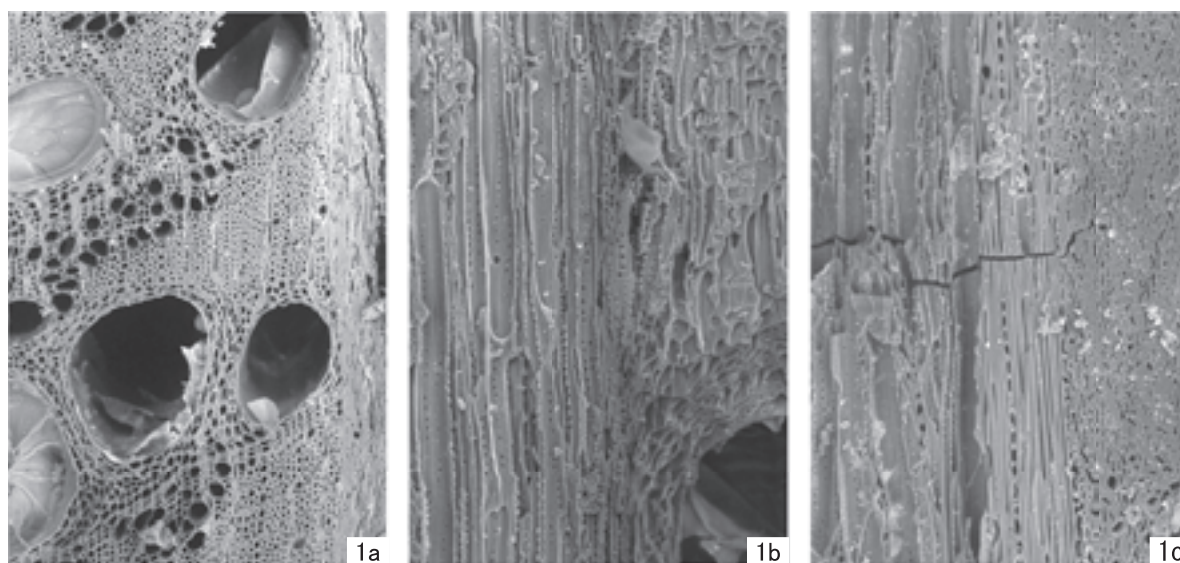
周辺の事例では、砂川堀を挟んで本遺跡の南に隣接する東台遺跡の8世紀後半～9世紀初頭とされる炭窯から出土した炭化材にクヌギ節と共にコナラ節が確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社, 2005）。東台遺跡では、

炭窯と同時期の製鉄炉も検出されており、出土した炭化材はクヌギ節に同定されている。このような状況から、コナラ節もクヌギ節と共に製鉄燃料材に利用された可能性がある。

【引用文献】

- 林 昭 三1991 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫 1999 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2005 東台遺跡第18地点出土試料の放射性炭素年代. 「東台製鉄遺跡 東台遺跡Ⅳ(第15・18地点)」, 文化財調査報告第35集, 大井町教育委員会・大井町遺跡調査会, 290-292.
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版 1 本村遺跡第111地点の炭化材



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節(木炭窯)
a: 木口, b: 柱目, c: 板目

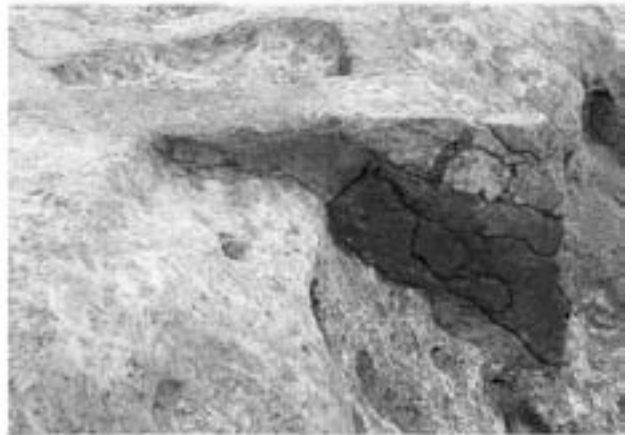
200 μ m: a
200 μ m: b, c



本村遺跡第111地点調査区東側（北から）



本村遺跡第111地点 炉穴



本村遺跡第111地点 炉穴土層



本村遺跡第111地点 風倒木痕（南から）



本村遺跡第111地点 風倒木痕（東から）



本村遺跡第111地点 木炭窯



本村遺跡第111地点 木炭窯 焼土・木炭層



本村遺跡第111地点 木炭窯・不明遺構土層



本村遺跡第111地点 不明遺構



本村遺跡第111地点 不明遺構出土カワラケ



本村遺跡第111地点 地下式坑 1



本村遺跡第111地点 地下式坑 2



本村遺跡第111地点 土坑 1



本村遺跡第111地点 溝 東壁土層



本村遺跡第111地点 溝



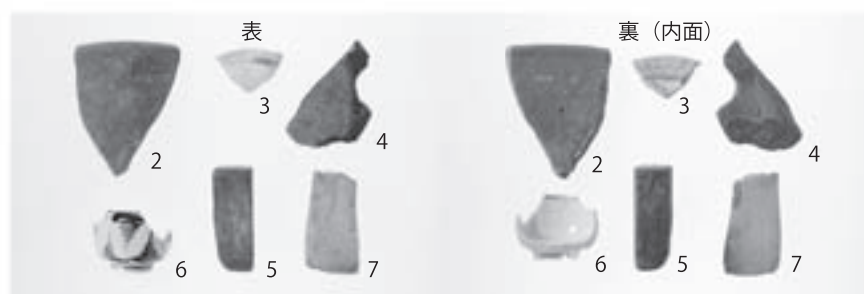
本村遺跡第111地点 調査風景



本村遺跡第111地点 調査風景



不明遺構出土カワラケ



本村遺跡第111地点 地下式坑 2・溝・トレンチ 3・5・6 出土遺物